

体育・スポーツ系大学生における SCAT2 のベースライン評価

尾原 芳美 (競技スポーツ学科 トレーニング・健康コース)

指導教員 佃 文子

キーワード：脳振盪，SCAT2，平衡機能

1. 緒言

脳振盪とは、頭部への直接、間接的な衝撃により引き起こされた脳の機能障害である。脳の機能障害は Sport Concussion Assessment Tool2(以後 SCAT2 と略す)を用いて、脳の機能を評価する。この評価は事前の評価が重要となる。

2012 年度に近藤らが体育・スポーツ系大学生の SCAT2 の評価結果について報告している。本研究では体育・スポーツ系大学生に SCAT2 の継続的評価を行い、体育・スポーツ系大学生の脳振盪の受傷状況を把握し、プレシーズンにおける SCAT2 の値とその推移を明らかにする事を目的とした。

2. 方法

- 1) 対象者は、B 大学の 1 年生(男子 291 名，女子 68 名，計 359 名)，コンタクトを有する体育会運動に所属する 2～4 年生(男子 166 名，女子 36 名，計 202 名)，全体の合計は、(男子 457 名，女子 104 名，計 561 名)であった。
- 2) 測定は、2013 年 4 月上旬及び 6 月に行った。
- 3) 測定項目は「SCAT2」に準じ、自覚症状・既往歴の調査・認知評価 (SAC)・平衡機能評価を用いた。

3. 結果および考察

表 1. 1 年生の既往歴有無の割合

	既往歴あり	既往歴なし
2012 年	6.5%	93.5%
2013 年	8.4%	91.6%

2012 年度と 2013 年度の 1 年生全体の脳振盪の既往歴は大きな変化はなかった(表 1)。脳振盪の受傷場面は両年度とも、スポーツ活動中に約 70%発生した。また受傷時期は、高校 2 年生時に脳振盪を受傷した割合が多かった。

2012 年度と 2013 年度の 1 年生の平衡機能のエラー数を比較した結果、日常的にスポーツ活動を行っている体育・スポーツ系大学生の片足立ちエラー数の平均値は 1～4 回の間であった。コンタクト競技 2～4 年生の継続比較の結果からは、サッカー部は平衡機能が改善されているが、男子バスケット部・男子柔道部においては改善されなかった。

本学はスポーツに関わりのある学生が多数いるため、脳振盪の発生率が高いと思われる。重傷事故対策として、また安全に段階的に競技復帰するために、受傷していないタイミングでベースラインでの評価は必要である。

4. 結論

- 1) 大学生のプレシーズンにおける SCAT2 の測定値を明らかにした。
- 2) 2012 年と 2013 年では、1 年生の脳振盪の割合、受傷時期、受傷場面、平衡機能評価は同様の傾向がみられた。

<引用参考文献>

- 1) 学校の管理下における体育活動中の事故の傾向と事故防止に関する調査研究報告書
http://www.jpnsport.go.jp/anzen/anzen_school/boushi_kenkyu/tabid/1651/Default.aspx, 2004.3
- 2) 内田 良：体育的活動時における死亡・負傷事故件数の二次分析詩論，愛知教育大学教育実践総合センター紀要 13. p203-210, 2010